

目次

ようこそ松本さぼうへ
姫川、高瀬川、梓川上流域マップ

1. りゅういき がいよう 流域の概要…………… 1
2. みず みどり 水と緑の溪流づくり調査とは…………… 8
3. この本に載せた生き物・ぐんらく 植物群落の数…………… 10
4. じょうほう 生き物の情報…………… 11
5. この本に載っている生き物のじゅうよう 重要さ…………… 141
6. さんこうしりょう 参考資料リスト…………… 144
7. ようご かいせつ 用語の解説…………… 148

索引

1. りゅういき がいよう 流域の概要

まつもとさぼうじむしょかんない りゅういき
松本砂防事務所管内の3流域

姫川流域

—急流支川多く扇状地が発達—

姫川は白馬村南部に源を発し、多くの支川を合流しながら長野県北部から新潟県南部へ向かい日本海に注ぎます。上流域は急峻な山岳地帯で、土砂流出の激しい支川が多くの扇状地を形成し、中流域では大崩壊地の稗田山が多量の土砂を吐き出しています。「糸魚川—静岡構造線」にほぼ沿って流れる姫川は、日本有数の災害の絶えない急流河川です。

高瀬川流域

—風化しやすい地質と急勾配—

高瀬川流域は、槍ヶ岳から流れ出る本川に2つの支川を合わせて3つの流域からなります。流域の地質の大部分が花崗岩で風化しやすく、また、上流域の山稜は森林が育ちにくく岩が露出しており、山腹崩壊や溪岸侵食が進んでいます。これに温泉作用による風化も加わり、降雨のたびに土砂流出をくりかえし、溪谷の勾配が急であるため、しばしば災害が発生しています。

梓川流域

—荒れた上流部に土砂が堆積—

槍ヶ岳を水源にする梓川に5つの支川が合流してきますが、流域上流部の山地では火山の爆発や温泉作用などで荒廃が著しく、多量の土砂が堆積しています。焼岳の噴出物はしばしば土石流となって流下してきました。また、流域に花崗岩があり、その風化が著しく、小規模の谷が多く発達する地形とあいまって、災害が起こりやすくなっています。

北アルプスに隣接し、めずらしい動物・植物がみられます

姫川、高瀬川、梓川の流域は北アルプスに隣接しております。北アルプスは、わたしたちが住んでいるところとはまるで自然条件のきびしい世界です。このような場所では、きびしい世界に適応した動物、植物でなくては生きていけません。このため、姫川、高瀬川、梓川流域には、他の地域では見られないようなめずらしい動物や植物が見られます。



(北アルプスでみられる動物や植物)

また、梓川上流域の上高地は国立公園特別保護区に指定されており、すばらしい自然景観がみられます。



(上高地の自然景観と動物・植物)

姫川・高瀬川・梓川流域の地質はもろくて、くずれやすい



姫川、高瀬川、梓川は糸魚川-静岡構造線上を流れます。糸魚川-静岡構造線は断層を構成しており、非常にもろい地質です。このため、多くの土砂が流れます。

また、姫川、高瀬川、梓川とも、河川の勾配が急で、少しの雨でも、大增水となってしまいます。

これまでにあった怖い災害

平成7年7月11日に梅雨前線の通過により集中豪雨がありました。このため、姫川は氾濫しました。また、姫川沿いの国道のシェルターの崩壊、大系線のレールもひしゃげてしまいました。



(氾濫した姫川)



(国道のシェルターの崩壊)



(大系線のレール)

高瀬川では、昭和44年8月11日に降り続けた雨により、土石流が発生しました。この土石流のため、旅館は流されていきました。



(高瀬川で起きた土石流)

昭和58年9月28日に奈川村をおそった台風10号による集中豪雨がありました。保育園のあったところは堤防が欠壊し、木や石でいっぱいになってしまいました。幸い、避難が早かったので、保育園の子供たちは全員無事でした。

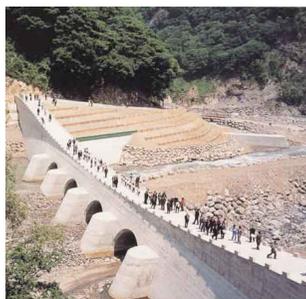


(土石流の発生)

砂防で安全な川に！

砂防の仕事は、山の土砂がくずれたり、それが一気に流れ出したりするのをふせいで、災害が起こらないようにすることをいいます。

上流からの土砂を止めるために砂防えん堤をつくっています。



(浦川スーパー暗渠砂防えん堤)



(小冷第2号砂防えん堤)

生きものにも気をつけた砂防に

姫川、高瀬川、梓川や周辺の山地には、多くの植物や昆虫などの動物がいます。

大雨が降るとがけくずれや土石流が発生する危険性が高いため、砂防施設をつくりつづけなければいけません。

そこで、生きものにも気をつけた砂防の仕事をしています。

さまざまな生物が生息しやすい環境を確保するため、瀬、淵、中州をつくり、自然の流れに近い滯筋をつけた床固工です。魚道を設定し、また従来生えていたカワラグミを中州や河岸に移植するなどして、自然に配慮した施行を行っています。



(床固群)

砂防えん堤によって、魚類の移動が分断されてしまいますが、砂防えん堤を施工するだけでなく、魚類の移動が出来るように魚道もつくっています。



(魚道)